

先染絹織物の品質向上処理方法

化学・環境部

1. はじめに

本場大島紬の代表的な染色方法である泥染染色は、奄美地方に伝わる伝統的な染色方法で、シャリンバイと自然の泥田で染色する一種の草木染色であり、その渋い光沢や柔らかい風合いは泥染大島紬の最大の特徴です。

しかしながら、摩擦堅ろう度に弱いという課題があり、これまで色々な面から検討・研究がなされてきました。

当センターでは、絹フィブロイン水溶液を用いる処理方法を開発し、平成9年に県有特許「先染絹織物の品質向上処理方法」を取得しておりますのでご紹介いたします。

2. 処理方法

図1に、開発した摩擦堅ろう度向上のための処理工程のフローシートを示します。

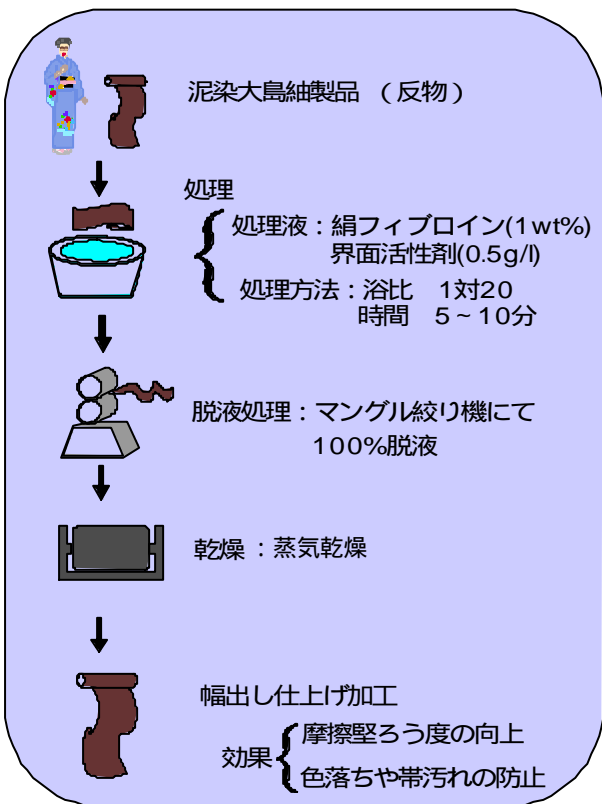


図1 処理工程フローチャート

まず泥染大島紬の反物を、絹糸の主要構成成分

である絹フィブロインと界面活性剤を添加して調整した処理浴に、5～10分間浸した後、マンゲル絞り機で脱水します。

次に蒸気乾燥機を使って乾燥した後、幅出し仕上げ加工を行い処理を終了します。

3. 効果

処理浴として1%絹フィブロイン水溶液を使用することにより、風合いを損なうことなく、処理前に1～2級であった摩擦堅ろう度が4～5級まで向上していることがわかりました。

さらにフィブロイン水溶液に界面活性剤を添加することにより、風合いを維持する効果が大きいこともわかりました。

表1に色落ち等によるクレーム製品への実施例を示します。いずれも処理前後の風合いに変わりはなく、摩擦堅ろう度が2級程度向上しています。

表1 クレーム製品への実施例

試料	摩擦堅ろう度試験 (級)		風合い (処理前後)
	処理前	処理後	
1	1～2	3～4	変化なし
2	1～2	3～4	変化なし
3	1	3～4	変化なし
4	1～2	4	変化なし
5	2	4	変化なし
6	2	4～5	変化なし
7	2	3～4	変化なし
8	1	3～4	変化なし
9	1～2	4～5	変化なし
10	2	4～5	変化なし

4. おわりに

この処理方法は簡便に泥染大島紬の品質を向上させることができ、従来よりもさらに良い製品を消費者に提供できるとともに、既に着用している着物の色落ち等のクレーム製品を救済でき、帯への汚れも防止できます。

なお、この特許は現在県内企業において実施されております。